820310

八幡平

1982年2月11日(木)～13日(土)
メンバー：ム菅沼,安達,伊藤(久),蔵田　4名
モンスターの中でスキーを！のつもりで計画したが、モンスターの中は滑れない。深雪も味わえずに終ってしまった。

'81年5月 至仏の大斜面を滑るリーダー

2月10日(水)

2月の八幡平、吹雪に閉じ込められるのではないかと、かすかな不安を抱いたまま、上野を発つ。

2月11日(木)

大更からバスで八幡平スキー場へ向かう。降りるのがイヤになるような吹雪の真只中に着く。食堂で身仕度を整え、ゲレンデを1回滑べる。昼食を済ませていよいよ出発。リフトの終点大黒森からゆるく下り、恵比須森の登りでコースをはずして左側の樹林に入ってしまう。視界はきかず、方向は全くわからない(私には)のに軌道は修正されて正規のルートへ戻る。一登りで茶臼小屋へ。ここをベースにすることに決まってホッとする。二重窓のがっしりした造りだが4人では空間がありすぎる。枯木を拾って細々と燃やすが、ちっとも暖まらない。小屋だからヌクヌクと暖られると思ったのは大きな間違い。アリスの最後のコンサートを聞きながら、寒さに震えていた。

夜半、外はますます荒れて、雪女の存在が信じられるような風の音だった。

2月12日(金)

きょうは八幡平へ。風が止んだだけでもとてもうれしい。シールをつけたまま、番号を必要にたどりながら行く。源太森付近から樹氷が現われる。当たり一面真珠色の中から浮かび上がる景色は幻想的で美しい。

陵奥荘で一休みしてから頂上へ向かう。300番の番号のみが山頂であることを示している頂きで記念撮影。そして初めてシールをはずして小屋まで滑べる。小屋の掃除と入口の雪かきをしてお礼の薪をしっかりザックに詰め込んで帰途につく。

ときどきガスが晴れて音空が広がる。はるか向こうまで樹氷が続いているのが見える。ちょっぴりでも晴れてくれれば、来たかいがあるというもの。満足。

源太森から黒石地まで滑り、ヌミール。薪を集めながら小屋に帰る。お汁粉を食べてもまだ時間があるので茶臼山に登り、みんなは急斜面を、私はゆるい斜面を1本滑べる。

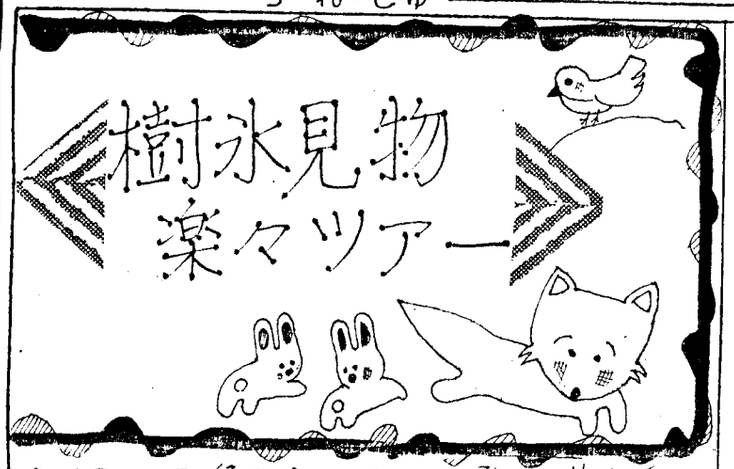
薪はたっぷりあり、昨日がウソのような暖かさだ。パチパチとはぜる火の音と、ストーブの上でコトコト煮えるビーフシチューは冬山にいることを忘れさせた。

(伊藤久記)

2月13日　5時起床のところ、誰かが起きはじめたので、時間を聞くと10分前、寒くてシュラフから出たくないなァと思ったが、そのうち、ストーブに残りのマキが入って暖かくなり起きる。今日は快晴!!きのう、小屋のノートに後は晴れれば言うことなしと書いたらそのとおりになってしまった。そして予定どおりのコースを行くことになる。出発時きのうは見えなかった峰々も見わたせ、八幡平のモンスター群もとてもきれいだ。小屋をバックに記念写真をとり、さっそく恵比須森のコルまですべりおりる。木をきりひらいたゆるい斜面なので、あまりまがらず、まっすぐにおりる思ったよりスピードが出、波うった斜面で転んでしまう。来た時、どこでこの切りひらいたコースに出たのか良くわからなかった。恵比須森への登りは

NO.00074

樹氷見物 楽々ツアー



シールをつけて後をふりかえりつつ登る。茶臼岳のうしろには岩手山がりっぱだ。恵比須山頂より、又ひとすべり。菅沼さんが下でザックをかかえているので真剣に下る。安達さんが格好よくすべってゆくが、ゆるい斜面のわりには、下がしまっている上にふんわりのった新雪のせいか、思ったよりスピードがでず、私は後傾ぎみで転びそうになる。下で盼のジュプールを見ると、あまりきれいな孔を描いておらず、がっかり。大黒森へは再びシールをつけて登る。8時だというのにまだリフトは動いていない。シールをはずし、菅沼さんが下りはじめるが、コースはもう少し左手の方で、ジュプールが残っており、三角形の番号札がついていた。トレースはかなり忠実に番号札をたどってついているのでそのとおりゆく。この下りは、林の中をジュプールをあまりはずさぬよう適当に木々の間をぬってすべりおりる。屋棟岳は山頂の下をまっすぐにコースがつけられており、下りも番号をはずさぬよう気をつけながら木々の間をすべる。西森山の登りはジュプールをたどってゆくといつの間にか番号札が見えなくなってしまった。どうやら少し左手によりすぎた様だ。山頂からの下りはジュプールが行きどまりになっていて、反対方向にもどっていた（そちらの方で正しい）。晴れていて行く手がはっきりしているので安心だ。西森山からの下りは、一番斜度がありそうだったが、木がこんでないので適当にまがれる。雪はいく分悪くなる。そして最後の前森山の登り結構ありそうだなァと思っていたら、番号札のとおりゆくと、かなりまっすぐで ぽっかりと、安比高原スキー場のゲレンデの途中に出てしまいあっけない終り。ゲレンデのかなり上の方だったので、疲れた足にうんざりの長いゲレンデの斜面だった。中間点のレストハウスで休もうといったん入ったがきれいすぎるので下のスキーセンターまで下ることにする。ちょうどお昼頃だったので腹ごしらえをして、荷物をおいて、ゲレンデですべる。菅沼さんが優待券をもらっておいてくれたので1日券がタダでもらえ、久時すぎまで目いっぱいすべる。ゲレンデはわりと広々したかんじ（土曜日ですいているせいか）でも、今シーズンオープンしたばかりでまだ木の株が出ていたり、雪質も山に比べてあまりよくない。竜ケ森の駅までではマイクロバスがタダで送ってくれる。盛岡に出て食事をし、夜行列車の時間まで間があるので銭湯に行って、さっぱりし、がうがうの夜行で日曜の朝、上野に着いた。（蔵田記）

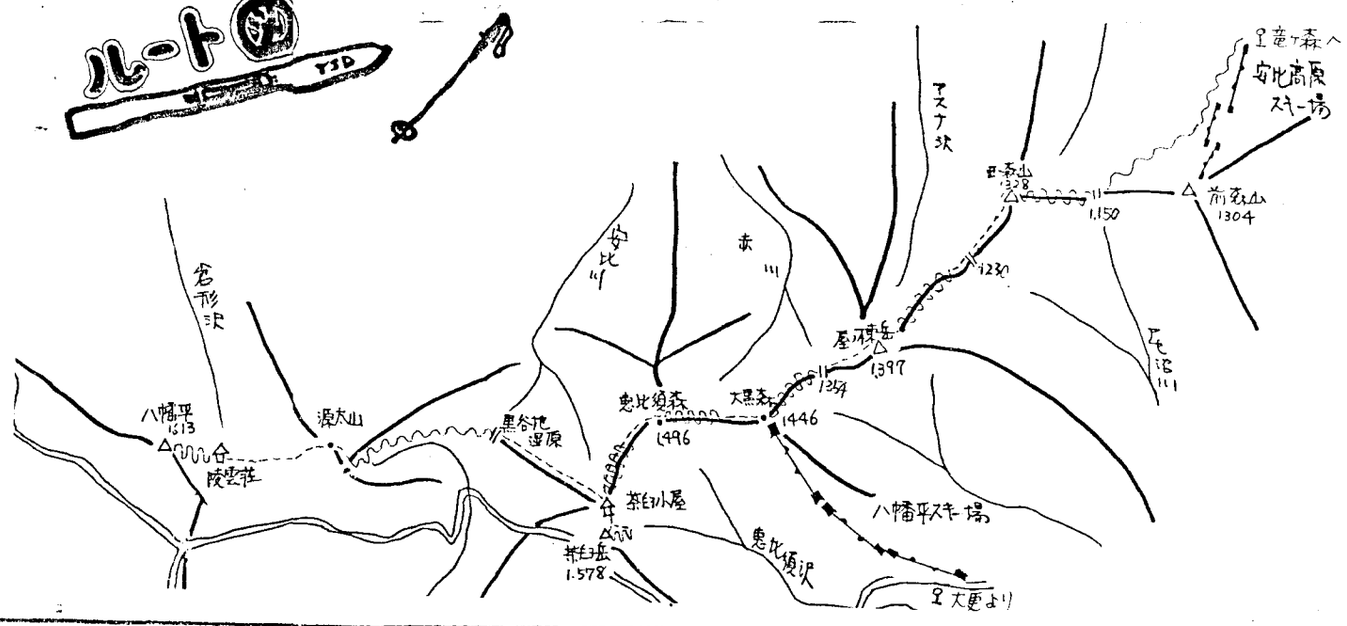
時間タイム

タイム：名大黒森(登)12:40→コル(登)12:50/13:05→茶臼小屋(登)15:00

名茶臼小屋(登)7:25→陵雲荘(登)8:50(ケス)／9:30→八幡平頂上(登)9:45(ケス)／55→陵雲荘(登)10:00(ケス)／45→茶臼山荘(登)12:20／13:40→茶臼岳(登)14:00→山荘(登)14:30

名山荘(登)7:15→恵比須森(登)7:50／55→大黒森(登)8:30／35→1354mコル(登)8:45／55→屋棟岳巻き(登)9:05／15→1270m(登)9:25／50→西森山(登)10:20／30→ゲレンデ(登)11:00→バス停(登)11:20

ルート



820310
3
NO. 00074